資料 6

第５回寝屋川市緑の基本計画審議会における意見内容と今後の対応方針

関連項目	意見内容	今後の対応方針	該当資料及び箇所
改定素案	○　概要版、本編とも色使いが多く混乱する。市のロゴを青色で統一することや、関連性の無い項目での同色表示は避けるなど、必要最小限の色彩表示に留めるべき。【山野委員】	○　全体的な色彩区分を見直す。	○本編全体
	○　「計画の進行管理」において、アクションプランによる進行管理方法を示すべき。【増田委員】	○　パッケージによる目標指標や個別カルテによる進捗管理内容を明記する。	○本編 P101
	○　用語集を添付するべき。【増田委員】	○　専門用語や使用頻度を踏まえて作成する。	○本編 P103～107
ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ	○　施策一覧における具体施策と重点施策との関連性について、具体施策を統括した視点により重点施策を掲げる旨の表示とするべき。【山野委員】	○　計画本編「6-5 計画の体系」に準じた表現とする。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ Ｐ２、３
	○　重点施策の中で淀川河川公園や寝屋川公園などの国・府が実施する事業に対する市の関わりを明確にするべき。【石田委員】	○　計画本編の記載内容に準拠し、事業主体と市の関与を明記する。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ P62､64、66
	○　緑視率などの目標値について「向上」ではなく具体的数値の設定に努めるべき。【石田委員】 ○　毎年の向上、または５年後の向上か。10%増などの具体的数値を示すことにより、取組主体のモチベーションが維持できるのではないか。【増田委員】	○　増加が期待される（都）対馬江大利線などで具体的目標値を設定する。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ P62､64、66、68
	○　緑化重点地区内のイベント回数が多く感じる。【大迫委員】 ○　遊びのイベントや美化活動、地域イベントなど目指す方向で目標は変わる。【石田委員】 ○　数が多いと把握も難しいが様々なイベントをカウントするべき。【中村委員】 ○　実感とかけ離れた表現は避けるべき。イベント内容に応じてタイプ分けするのも良い。【増田委員】	○　地域で毎月実施するグランドゴルフなどを含めて一律でカウントしていたが、開催主体や内容を踏まえてイベントの目的タイプ別にカウントする。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ P62、64
	○　「ワンドにおける在来生物種の確認数」の目標指標として「現状維持」は妥当か。【大迫委員】 ○　特定種のみの増加や、在来生物 23 種の存在状況の検証は非常に難しく、「現状維持」は当初段階の目標指標としては適切ではないか。【石田委員】	○　当面は「現状維持」とし、今後は市環境基本計画等とも連携した調査・研究を進める。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ P66
	○　プラットホームの目標は「設置」のみか。参画団体数などを増やす指標は不要か。【工藤委員】	○　当初５年は「設置」、その後５年は「参画団体数」とするなど、可変的な目標設定とする。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ P68
	○　重点施策の前に個別施策を掲載する構成とするべき。【増田委員】	○　ご指摘どおりの構成とする。	○ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ全体
ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｺﾒﾝﾄ	○　商工会議所、教育関係機関や大学等の研究機関、市民活動団体などに投げかけて、広く意見を求めることも必要。【増田委員】 ○　公園利用の視点を踏まえ、PTA や子育て世代の意見が重要。【中村委員】	○　市民活動団体や北大阪商工会議所などへ通知し、意見を求める。	―
緑視率調査	○　府ガイドラインでは画角に道路等が多く緑視率が向上するか疑問。他に最適な測定方法はないか。【工藤委員】 ○　画角や地点、計測時期で結果が大きく変わる。普遍的な手法は特になく、一定のルールに従った継続的なデータ収集が重要。【増田委員】	○　府ガイドラインに基づき、継続的に調査を実施する。	―
	○　樹木は見通しを悪くするので安全性の問題から避けられるケースがある。【中村委員】 ○　安全確保を含め、維持管理方法や草花の種類などのルールづくりが重要。【増田委員】	○　単に行政が植樹するだけではなく、市民等との協働による取組を進める。	―
その他	○　計画策定後は、シンポジウムや小学校への出前講座などを実施し周知するべき。【増田委員】	○　必要予算の確保など、実施に向けて取り組む。	―